opusdei.org

属人区長の書簡 (2011年2月)

「神に近づくならば、必然的に隣人や遠くの人々にも近づくことになります。」オプス・デイ属人区長は、2月の書簡においてこのように結論づけています。

2011/02/07

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに! 教会の数知れない子どもたちと世界 中の多くの人たちと同様に、大きさいであるの人たちと同様に、大いネースをもって、神のしもべヨに行いて、カロニ世の列福式が5月1日に行まりれるというニュースを受け取れている。今年の労働者聖ヨセフの祝信しまった。 を持っておられた、神のいつといるというに捧げられる復活節第二主日に当たります。

急を要するこの必要性に関しては、 今後の幾つかの主日の典礼で朗読される聖マタイ福音書の第5章において展開されていきます。二日前に真田が高いの垂訓の最初の部分としての投いで表す。記述したのといるがではこの聖性への招きはこのといるな結果がもたらされるかを聞いていくことになります。主はご自分の教えが、神がシナイ山でモーセにの教えが、神がシナイ山でモーセに 授けられた掟を完成するものであることを示し、5章の最後にその教えをこう要約されました。「だから、あなた方の天の父が完全であられるように、あなた方も完全な者となりなさい。」[3]

イエス・キリストなしには、この目 標を望むことさえできません。Sine me nihil potestis facere私を離れて は、あなた方は何もできない[4]、と ヨハネの福音書に明言されている通 りです。各自が聖霊の恩恵を受け入 れて、自由に協力しなければなりま せん。聖霊の恩恵は特に諸秘跡、つ まり人間のごく近くにいようと、主 がその優しさと知恵によって定めら れた見えるしるしを通してもたらさ れるのです。ベネディクト十六世は 「神は、私たちのつまらない些事に 心を寄せることなどないほどに遠 く、かけ離れ、あまりにも偉大な存 在ではありません」と述べられ、こ う続けておられます。「確かに偉大

な方であるからこそ、小さなことに も関心をお持ちです。また、私たち は永遠の愛によって創造されたもの ですから、人間の霊魂、人間自体も 偉大なものです。決して小さなもの ではなく、神の愛を受け得る存在な のです。 | [5] 続いて、旧約聖書に 見られる聖なる神への畏れに言及さ れ、こう述べておられます。メシア がこの世に来られてからは、「神の 聖性とは、私たちが恐れをなして逃 げ出さなければならないような、輝 くばかりの力だけではないことが分 かりました。それは愛の力であり、 それゆえ、清める力があり、全てを 癒すものなのです。| [6]

明日の2月2日、イエスの奉献と共に 祝うマリアの清めの祝日は、罪から の清めの必要性を語ります。これ は、聖性の小道を歩み始めるための 第一歩であり、不可欠なことです。 この福音書の場面は、聖なるロザリ オの喜びの第四の神秘の黙想で考察

我が子よ、御母のこのような模範を 見ると、どんな犠牲を払っても、神 のおきてには従わなければならない ことが、あなたにもわかったのでは ないでしょうか。

清め一、そう、私たちには清めが必要です。償わなければなりません。しかし、それ以上に必要なのは神への愛です。心の汚れを焼き尽くす愛一、心の惨めさを聖なる炎で燃え上

がらせる愛の火一、このような愛が なければならないのです。」[7]

神の御子が世を贖うために人となら れてから20世紀以上の歳月が流れま したが、残念ながら世界には未だに 罪があふれています。キリストが十 字架の死と復活の栄光によって罪に 打ち勝たれたとはいえ、その無限の 功徳が適用されるためには私たちの 協力が必要です。神に象ってその似 姿として造られた私たちは、一人ひ とり救い主の功徳を自分のものと し、贖われるため主に協力するよう 努めなければなりません。全人類の 救いの手段であり道具である聖なる 教会において、お側近くで主に従い たいと思っている私たちには特にそ うすることを期待されています。あ なたを神から引き離すものを退ける よう努力していますか。日々、主と の深い一致に到達しようという熱意 を育んでいますか。

「罪を経験しても、それによって、 使命を疑うべきではありません。罪 を犯すとキリストを認識するのは確 かに難しくなります。ですから、自 己の惨めさを正面から見つめ、浄化 に努めなければなりません。神は現 世での悪に対する完全な勝利を私た ちに約束されず、ただ戦うことだけ を望んでおられます。『私の恵みは あなたに十分である。』(2コリン ト12.9) 高ぶらないように与えられ た棘を退けて下さい、と祈った聖パ ウロに対する神のお答えはこうだっ たのです。

神の御力は私たちの弱さの中にあらわれ、地上を旅する間は決して完全な勝利は得られないと知っていても自己の欠点と戦うようにと、私たちを励ましておられます。キリスト信者の生活は始めることであり、毎日がやり直しの連続なのです。」[8]

それぞれの生活において、罪と罪の 結果に対して効果的に戦うようにし ましょう。そのために、ふさわしい 頻度で心から痛悔してゆるしの秘跡 に与りましょう。私たちは、主に よって制定されたこの神のいつくし みの秘跡が、ただ罪を赦すためだけ ではなく、聖性の敵と戦う私たちを 強めるためでもあることを知ってい るのですから。「私たちの惨めさに もかかわらずというのではなく、あ る意味で、その惨めさを诵して、つ まり肉体と土から成っている人間と しての私たちの生活を通してキリス トが明らかにされます。絶えざる奉 仕に自己を急き立てながら、人々の ため、惜しまず自己を捧げる努力、 わがままを押える努力、清い心であ りたいと望む愛を実行する努力、よ り良くなろうとする努力においてキ リストが証明されるのです。| [9]

ベネディクト十六世は、数年前、教 皇職の初めの頃、現代において度々 見られる次のような間違った考え方 をする誘惑に対して警戒するよう呼 びかけられました。神に対して

「『いいえ』という自由、罪の暗い 側面に落ちていく自由、何かを自分 でする自由は、真の意味で人間であ ることの一部ではないのか。このよ うな自由によって、私たちは初め て、男であり、女であり、真の意味 で自分自身であることの幅と深みを とことん追求することができるので ないか。私たちは、現実に完全な意 味で自分自身となるために、神に逆 らってでも、このような自由を試し てみるべきではないのかと。一言で いえば、私たちは、悪いことは根本 的には善いことだと考えています。 私たちは、充実した人生を経験する ために、少なくとも少しくらいは、 悪が必要だと考えています。| [10]

神のみ旨を果たそうと望んでいる人 たちの中にも時に垣間見られるこの 考え方が誤っていることは、私たち を取り巻く世界を一瞥するだけで歴然としています。それゆえ教皇りではます。「私たちが自然に目れたちうするだけでをはいました。「私たちうずえ人はいました。」を持ったが、一切ではる間がある。これが、一切ではいるできるがある。」を表しているのです。」[11]

このような意味で、11日に祝うルルドの聖母の祝日は際立ったものというとなる。ピレネー山麓の片隅で、マリケンでは、近日で、で、「出現になり、またれらいで、では、近日分の身分を明かされました。神の時別の御計られた瞬間があるために、宿られた瞬間があるために、切の罪から免れて

いたということです。この偉大な仲介者に、私たちをうつくしみ深い眼差しでご覧になり、贖いを必要としているこの世に、御子が私たちのために勝ち取ってくださった恩恵を十二分に注いでくださるように願いましょう。

常に神の恩恵のうちに生きようとす る努力は、キリスト者を兄弟である 人々から引き離すものではありませ ん。逆に、人々の霊的物的必要性を 生き生きと感じさせ、善意にあふれ た心を与え、共に苦しみ、一人ひと りのために自分を捧げ尽くすように してくれます。神に近づくならば、 必然的に隣人や遠くの人々にも近づ くことになります。「私たちはこの ことをマリアのうちに見ることがで きます。マリアは完全な意味で神と 共におられます。このことが、マリ アがこれほどにも人々の近くにいて くださる理由です。だからマリア は、あらゆる慰めとあらゆる助けの 母となることができるのです。誰でも、弱さと罪のうちにありながらいる必要な助けてあらゆる必要な助けてあるできるのです。とができるのです。とができることができるでのできることができ、またいできることができ、創造的ないして、創造的ないして、からです。」[12]

以上の考察は、マリア年が幕を閉じ るばかりになっている今、私たちが 期待している聖母からの恩恵をより 良く活用するのに役立つでしょう。 マリア年は2月14日に終わります。 オプス・デイの歴史の中に主が介入 された二つの出来事の記念日です。 最初は、聖ホセマリアにオプス・デ イが女性のためでもあることが示さ れ、次に、オプス・デイの最初の司 祭たちをどのように入籍するかが示 されました。神のいつくしみに対す る私たちの感謝が、ゆるしの秘跡を 実り豊かに受けることによって清め

られた「打ち砕かれ悔いる」<u>[13]</u>心から出るように準備しましょう。聖ホセマリアの助言を聞きましょう。

今月は色々な記念日のある月です。 これらの日々に、主に心を向けま しょう。Ut in gratiarum semper actione maneamus! 常に感謝するこ とができますように。私の子どもで ある皆さん、オプス・デイはあなた のもの、一人ひとりのものであるこ とを考えてください。 教会とオプス・デイに深く根付いて いる聖ヨセフの祭日が近付いていま す。古く新しい信心に従って、この お祝い日を準備するための七つの日 曜日を心に掛けましょう。創立者が 毎年手帳に書き込みをされるとき、 この日曜日ごとに黙想するため、聖 なる太祖の悲しみと喜びを書いてく れるよう私に依頼された事が思い出 されます。それは、限りない愛情と 感謝のうちに「心から愛している私 の父であり主(あるじ)であるお 方 と呼びかけておられた方の祝日 を、最良の心構えで準備する一つの 方法だったのです。

皆さんと共にブリュッセルに〈抜け出して〉いました。そこで、創立者と共に、オプス・デイがいかに充実した確実な成長を遂げているかを目にしました。一人ひとりの日々の応え方によって、こうあるべきだとのいました。また、私たちは多くのりころから招かれているからであり、

急を要するこのことに対して肩をす ぼめて無関心を装うことは誰にも許 されません。

19日に霊名を祝っておられたドン・アルバロに助けを求めましょう。彼は毎日使徒職を繰り広げられておられました。その生き方は、いつも全ての人に関心を持っているものであり、その熱意をもって相手に接しておられたのです。

昨日、教皇様との謁見に与りました。皆と一緒に参上し、創立者がれたちに、を上し、創立者がたちに、をしている。 Mariam! ペトちに教えたように Mariam! ペトカーと共の ad lesum per Mariam! ペトカーと共にする。 Mariam! ペトカーとなる。 Mariam! ペトカーとなる。 Mariam! ペトカーとなる。 Mariam! ペトカーとがしている。 話しなおはにれるのもにではいる。 Mariam! といることにいる。 Mariam! といることにいる。 Mariam! といるのもにいまし、その教えに従いまし、その教えに従いまし、その教えに従いまし、その教えに従いまし、

う。教皇様を心の底から愛しましょ う。

筆を置く前に、再度、私の全ての意向のことをはっきりと自覚するようお願いします。特に、無原罪のおとめ、Mater Pulchræ Dilectionis麗しき愛の御母に願ってください。

心からの愛情を込めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2011年2月1日

[1] ヨハネ・パウロ二世、2001年1月 6日使徒的書簡『新千年期の初め に』31番。

[2] ヨハネ・パウロ二世、2002年10 月6日ホセマリア・エスクリバーの 列聖宣言文。

- [3] マタイ 5,48.
- [4] ヨハネ 15,5.
- [5] ベネディクト十六世、2006年4月 13日主の晩餐のミサの説教。
- [6] 同上。
- [7] 聖ホセマリア、『聖なるロザリオ』喜びの第四の神秘。
- [8] 聖ホセマリア、『知識の香』114 番。
- [9] 同上
- [10] ベネディクト十六世、2005年12 月8日無原罪の聖マリアの祭日の説 教
- [11] 同上
- [12] 同上
- [13] 詩編51,19.

[14] 聖ホセマリア、『拓』814番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2011nian-2yue/ (2025/12/13)